

PRO-LIFE

中絶に反対する運動

2001年6月 No.128

胎児を守る運動

男性の精神的苦痛

小さな子ども
のことや、妊
婦のことや、
新生児を抱き
かかえている

キリストを通して許しを学び、癒
されることを知ることによって成
し遂げられます。そしてこれらの
感情に終止符を打つことが出来る
のです。
ジョン・C・ウィルキー 医学博士

まもなく父の日がやってきます。父の日にちなんで、皆さんにあまり知られていない妊娠中絶の犠牲者について話すのは、良い機会だと思えます。私は中絶の明らかな犠牲者について話そうとしているのではありません。すべての妊娠中絶は罪のない胎内の子どもの心臓を停止してしまおうということとは私達は皆知っています。その上、妊娠中絶はしばしば母親に肉体的精神的に深刻な傷跡を残すことも知られています。時々、妊娠中絶は子どものいのちだけでなく母親のいのちにも危険が及ぶこともあります。

だという風に繰り返し教え込まれているために、しばしば男性はこみあげてくる怒りや苦痛の原因をはっきり理解しないかもしれませぬ。ほとんどすべての男性が妊娠中絶の後に体験する徴候として怒りがあります。そして、彼はたいていはその有害な怒りを彼自身や彼の周りの誰かに向けます。

父親のことなどを思い浮かべるのです。そしてこの男性は怒りやその他の有害な感情を吐露することができるのです。この激しい感情は妊娠中絶を思い出させる人々、すなわち、彼の子どもを墮した女性や、墮胎医や、あるいは、たまたま不運にも近くにいた個人に向かつてぶつけられるかもしれません。

ローマカトリック大学婦人科研究所の所長サルバトール・マンクロー氏は「医学にとつてクローン技術はもう必要ない。何故なら近い将来、医師達がクローン技術に頼ることなく、移植臓器を「復元」出来るようになるからである。出産の時の胎盤やその結にある人間の幹細胞を使えば出来る。」と言った。

胎児クローンに代わる胎盤バンク

しかし、今日私は妊娠中絶のもう一人の犠牲者について話をしたいと思えます。それは、父親についてです。父親は子をもうけるだけでなく、家族を養ったり、保護したりするように本能的に生まれついています。妊娠中絶が行われると、男性は本質的に彼の人生の非常に重大な領域、すなわち、社会的見地から成功したのか失敗したのかしばしば定義づけられるところで失敗したことを知ります。

他の徴候として次のようなものがあります。不眠やパニックに陥ったり、攻撃的になったり、物事の処理能力が低下したり、フラッシュバックや悪夢に悩まされたり、自分に孤立を強いたり、自滅的な傾向さえも出てきたりします。運

妊娠中絶後の危機を経験する男性のこれらの徴候を処理する最善の方法は、彼の話を親身に聞いてくれたり、彼を癒してくれたたり、精神的苦痛から回復するように導いてくれる男性の助言を探し求めることです。精神的に傷ついた男性が心の傷を癒すために最初の重大なステップを踏み、助けを求めるためには、彼自身が安全だと感じる事が必要不可欠で、彼が何を言っても絶対的な信頼が保たれなくてはなりません。彼は中絶にともなう喪失感と恥を心から悲しむ必要があります。彼は失われた子どものために泣き、喪に服すことが許されなければなりません。彼は中絶に関わったすべての人を許さなくてはなりません。そして、一番重要な事に、これが一番難しいのですが、男性であることに失敗した自分自身を許さなければなりません。これは、たいていは、

世界から集まった仲間達にマンクロー氏は、化学療法が強化された状態では、すでに腫瘍治療に使われている技術を使うのは大変になる。強化治療を行う前に凍らせた「冷凍保存細胞」を使うと、患者自身の生物体の組織を使って、患者の随を「クローン」出来るのである。」と説明した。

もし、妊娠中絶後に男性が殻に閉じこもり、自分の感情を無視する場合は、彼は数ヶ月から数年に渡ってこれらの症状を抱え込む可能性があります。その結果として社会一般にフッキング hooking) と呼ばれているよくある現象に陥るかもしれません。そして、その時にこそ彼は意識的であれ無意識的であれ妊娠中絶のことで思い出す

この結や胎盤に大量にある。つまり、もしこれらの幹細胞を組織だつて集め保存する事が出来たら、将来治療の可能性を求めて長い間待つ必要はもうなくなる。」と説明した。

この技術は、イギリス政府が治療目的の胎児クローニングプログラムを許可したことに対して盛り上がった議論に、新しい要素を提供することになるだろう、とマンクロー博士は言った。

これはローマカトリック大学の会議「人間の生命の初期」で議論されたものである。(July 9, 2000)

妊娠中絶後、男性は精神的異常に陥ります。妊娠中絶は抜き差しならない関係から解放されるもの

この技術は、イギリス政府が治療目的の胎児クローニングプログラムを許可したことに対して盛り上がった議論に、新しい要素を提供することになるだろう、とマンクロー博士は言った。

これはローマカトリック大学の会議「人間の生命の初期」で議論されたものである。(July 9, 2000)

これはローマカトリック大学の会議「人間の生命の初期」で議論されたものである。(July 9, 2000)

行き所のない父親の愛情

「自分の好き勝手に生きるために子どもを殺す人は、心の貧しい人です。」

マザー・テレサ

ガールフレンドのリサと一緒に住み始めて、七ヶ月たった頃だった。彼女には、五歳になるブライスト、八ヶ月のシヨーンという二人の子どもがいた。リサと子ども達と一緒に過ごすうちに、彼らは僕の生活でもっとも大事な存在になっていった。それまでは、中絶について真剣に考えたことはなかったと思う。中絶が話題になったときはいつも、個人的には反対だが最終的に決断するのは女性本人だからねと答えていたような気がする。この問題について深い見解のないほとんどの人が、同じように答えると思う。

ある晩、僕はピザを食べに出かけた。その夜のことは忘れられない。僕はシヨーンを抱いて、ひとかけの小さなパイナップルを食べさせながらリサに向かってこう言った。「このおちびちゃんを見てみるよ。この子を見てると、中絶がいかに愚かな

ものか考えさせられるじゃないか。」リサの答えは、僕の予想とは違ったものだった。「ジム、実は私、その中絶をしなくちゃいけないんじゃないかと思うの。」僕は自分の耳を疑った。彼女は、今月生理が来なかったのも、もしかしたら妊娠したかもしれないと言った。家に帰って、妊娠検査薬を使ってみたら、結果はまぎれもない陽性を示していた。僕は話し合い、リサは、先に結婚してくれないんだったら子どもは産まないと言った。結婚すると、もしたら彼女は、子どもを産んでもいいけど結婚するまではまだ決めたわけじゃないし、それまでは誰にも知られたくないと言った。そんなの面白いことさ！その晩ベッドに入った僕は、この世で一番幸せな男だった。俺も親父になるんだ！

一夜にして僕の人生が意味を持ちはじめた気がした。生まれて初めて、自分が誰であるか、どうして生まれてきたのか、何のために生きているか理解できたと思っただ。リサはその日の昼頃仕事から戻ってきた。診療所に行って診察してもらったら、やはり妊娠しているとされた、来週中絶の予約をしてきたと言った。嘘だろ！僕は何時間も話し合い、僕は実際に膝をついて子どもを殺さないでくれと彼女に懇願した。でも彼女は聞く耳をもたなかった。彼女は彼女なりに正当な理由があると言った（経済的に無理、家族にまたなんか言われると嫌、三人の子どもはすべて父親が違う、そして僕とはまだ完璧に安定した関係とは言えない、など）。

僕はついに、交換条件を出した。これなら彼女も抵抗できないだろうと思う条件を。「明日仕事を辞めて来いよ。妊娠の間君の経済面は僕がサポートする。家のローンも僕が払う。生まれてくる子どもに対する法的な義務は、すべて僕が負う。子どもの養育費については、君はいつさい僕に払う必要もない。子どもに会いたいときは、いつでも会ってくれていい。」だけど、それでも彼女には満足ではなかった。僕が何を言っても彼女を納得させられないことになつと気がつくくと、僕は母に電話した。母は敬虔なカソリック信者で、プロ・ライフ派だから。母ならばこんなことについていろいろ知っているし、自分の孫が殺されるように必死になつてリサを説得するだろうと思っただ。母とリサはしばらく話をしていたが、それでもリサの気持ちは動かなかった。彼女の決意は固かった。

次の日起きると、僕は早めの家を出た。僕にはやらなきゃいけないことがある。僕の子どもは死の瀬戸際にあり、僕は何をしても子どもをその運命から救つてやる。そう思っていた。僕はリサの父親の家に行き、彼女のお父さんに相談した。彼は家族中に連絡して同じことを伝えてくれた。それから僕は、彼女の友人の何人かの家に寄り、力を貸してくれるよう頼んだ。僕が家に帰り着く頃には、リサは電話の集中攻撃にあつていて、かんかんになつていった。僕の服は全部箱に入れて部屋の外に出されていて、メモが置いてあった。「私の家から出て行って！私の人生からも！二度と顔も見たくないわ！」そうして僕は出て行った。その晩遅く、兄の家でこれまで起こったことを話していると、携帯電話が鳴った。「ジム、リサよ。なぜだかわからないけど、すごく出血しているの。どうしよう。」僕には何が起こっているかわかった。僕が彼女をひどく動揺させたのが原因で、彼女は流産したのだ。僕の胸は痛んだ。僕があんなに彼女を動揺させたりしなれば、子どもは死なずにすんだのに。これも神様のお導きだと自分に言い聞かせようとしたりもした。いろんな状況を考えると、きつとこれが一番いい結果だったんだらう。続く一ヶ月、僕は自分を責め続けた。もしもつと違うやり方をしていれば、違う結果になつていたかもしれないと考えずにはいられた。リサは基本的にいい人間だから、本当に中絶したりはしなかったんじゃないかと思っただ。流産から一ヶ月くらいたつた頃、リサが電話してきた。後ろでブライスが泣き叫んでいるのが聞こえた。リサは、ブライスが僕を恋しがつてること、次の日ブライストと一緒に過ごすことを伝えたいかと思つて、僕もブライストに会いたいよ、と僕は答え

マザー・テレサの家庭論

(一九九五年北京で行われた国際女性会議でのスピーチより)

た。次の日の午後、ブライスを迎へに行き、二人で夜までずっと一緒に過ごした。夜九時頃ブライスを送り届けた後、家に入りてリサとしばらく話をした。気がつくとは何時間も話して、このひと月お互い何をしていたかに話が咲いた。話しているうちに、リサがふと口をすべらした。流産は嘘だったのだと。あれは中絶だったのだと。

僕が怒鳴り始めると、彼女は警察に電話するわ、今のうちに帰ったほうが身のためよと言った。

僕は彼女の家から離れたかった。バンに飛び乗って運転し始めたけど、何をしてもなく、行くところもなかった。ただその場を離れたかった。これが結末？そんなもんだってみんな言うけれど、僕にはそう思えない。忘れるってみんな言う。忘れて人生前に進まなきゃって。それはいかにないんだ。今じゃ、プロ・ライフが僕の人生になってしまった。僕のガールフレンドには、子どもを殺す法律的な権利があった。だから僕の子どもは死んだ。こんなことがあって

もいいのか？
彼女が僕から何を取り上げたか知ってる？
子どもを抱くこと。子どもを寝かしつけること。ミルクをあげること。大きくなっていくの

を驚きの目で見守ること。一番最初に生えた歯、一番最初に歩いた日、一番最初にしゃべった言葉、そんなことに大喜びすること。アイスクリームを食べたり、三輪車に乗ったり、スクール・バスに乗ったりするのを見ること。庭で一緒にキャッチ・ボールすること。車の運転を教えること。大きくなって成人するのを見ること。そんなことすべて。

彼女が僕から取り上げたものは、僕の人生をめちゃめちゃにしました。彼女が僕の子どもから取り上げたものは、もっとひどい。子どもの人生すべて取り上げてしまったんだから。

この話の最後に言っておきたい。プロ・ライフ派として、僕たちはもっと真剣にこの問題に取り組んでいかなければならない。ほかの人々に正しく理解してもらうためには、僕たち自身が中絶について正しい知識を身につけなければならぬ。自分の信じていることを貫くことをおそれてはいけません。ほかの人と話してほしい。一人の他人との会話が、罪のない子どもの運命を変えるかもしれないのだから。

ジム・カイザー

え、男と女の美しい違いを否定する人の気持ちに私にはわかりません。神が与えて下さった尊い贈り物は、何もかも一緒ではありませぬ。私がしているように、貧しい人に施しを与えたいがどうしたらよいか、と相談される度にこう答えます。「私にできる事があなたにはできないし、あなたができる事が私にはできません。けれど力を合わせれば御心にそった素晴らしい事ができるのです」と。

神は我々人間ひとりひとりを、愛し愛される存在として慈しみ創造しました。でもなぜその一部を男性に、残りを女性にしたのでしょうか？女性の愛は神の愛のひとつの形で男性の愛は、そのもうひとつの形だからです。どちらも愛する目的は一緒でも、それぞれ違う形で表されています。男と女は互いに補い合うことで、ひとりの時よりもより深く神の愛を体験できるのです。

女性がもつ偉大なる愛の力は、その人が母親になる時に顕著に現れます。神は母性という贈り物を女性に与えて下さいました。代

え、男と女の美しい違いを否定する人の気持ちに私にはわかりません。神が与えて下さった尊い贈り物は、何もかも一緒ではありませぬ。私がしているように、貧しい人に施しを与えたいがどうしたらよいか、と相談される度にこう答えます。「私にできる事があなたにはできないし、あなたができる事が私にはできません。けれど力を合わせれば御心にそった素晴らしい事ができるのです」と。

「汝自身を愛するように汝の隣人を愛せよ」という神の言葉があります。まず自分自身をしっかりと愛し、それから同じように隣人を愛するべきです。でも、自分自身を神の子と信じられないで、自分を愛することができませんか？男女の美しき違いを否定する人達

は、自分が神の子と信じていないため、隣人も愛することができません。分裂や不幸や平和の崩壊ばかりをもらたします。私がいつも言っています、中絶は世の平和を乱す最大の破壊行為で、男と女がすべて一緒にいるべきと望む人は、例外なく中絶賛成派です。

死と悲しみの代わりに、平和と喜びを世界にもたらしみましょう。

そのために私達は神に平和を求め、お互いが神の子どもであり、兄弟姉妹であることを慈しみ受け入れなくてはなりません。子ども達が愛と祈りを学ぶのに最適な場所は家庭です。父と母が愛と祈りを育むのを見て育ちます。崩壊したバラバラな家庭では、子ども達が愛や祈りを知らずに育つことが多く、こうした崩壊家庭の多い国では、現実問題となつていきます。特に裕福な国々では、愛されない、排斥された不安からのがれるために薬などに手を出す子ども達が沢山います。

けれど家族の結びつきが強まれば、子ども達は父母の愛の中に神の特別な愛を見つけ、国全体も愛と祈りに満ちていくでしょう。子どもは神が家庭に与えた最大の贈り物で、神の愛をそれぞれの形で表現する父親と母親、両方を子どもは必要としています。共に祈る家族は深く結びつき、神が我々を愛するように、互いに愛し合うでしょう。愛は常に平和をもたらします。

愛する気持ちと喜びを常に忘れず、出会った人すべてと分かち合いたしましょう。最後に、北京会議で手をさしのべようとしている女性達に祈りをささげます。聖母マリアのように上品で気高いあなた達が、互いに愛をもって平和に生き、家庭や世界が神の意図する美しい世界となつていきますように」

男性が「選択」を支持する

私は、男性嫌いのフェミニスト(男女同権主義者)のように聞こえないようにこの話をするように努めます。

この世の中で、中絶について議論するときに、「女性の体についてどうこうせよと私は女性に言うことはできません。」という決まり文句を言う男性ほど、むかつくものではありません。

それはパワードのようなものです。その言葉は、普通自己満足のほほ笑みを浮かべて発せられます。彼らは、「私は冷静で理解ある男だから、女性が求めているものがすぐわかるんだ。」と

男性が使い古された文句を繰り返すとき、彼らの声には少し気乗りのなさがあるときがあります。そのような男性は、個人的には中絶に反対しているけれども、女性にどうすべきかを言えないと信じている男性なのです。たいていの場合、このような男性は今までに一度も、「貞淑な」という言葉と「デート」という言葉を同じ文の中で使ったことがないのです。きつと彼らの多くは、自分自身のためになるのなら、女性の体のことを女性

にどうすべきか、かなりうまく言うことができるでしょう。

中絶、あるいは遠回しに言うところの「選択」は、彼らの多くにとつて無くてはならないものになっていくのです。なぜなら、その言葉には、道徳的分別の欠如によってもたらされるあらゆる未知の問題を消し去ってくれる力があるからです。

私が先週、人命に関する会議に出席していたところ、ある男性が私にお決まりの「女性の体についてどうこうせよと私は女性に言うことはできません。」という文句を使ったのでした。

私は論理的に彼に反論しました。「女性の胎内にいる体についてはどうなのですか。もしそれが男性の体、つまり男の赤ん坊だったらどうするのですか。確かにそれは女性の体ではありませんね。だって彼女が同時に男性と女性であることはありえませんが、その場合、あなたは女性に言うことができるのですか。」

彼は押し黙って私を見ました。このように反論されるとは彼は予想していなかったのです。彼はたぶん、私が若かったので、中絶賛成論者だと思ったのでしょう。

過去4年間にに行なわれた3回の大きな調査研究によって、女性の方が男性より中絶反対になる傾向が強いことがわかっていくのです。

私たちは母性本能を持っているので、もしいのちについての全ての事実、つまり中絶とは胎児にどのようなことをするのかといった新聞には書かれていないことを全て私たちが知れば、私たちの多くは赤ん坊の側にくのです。

私は男性とは十分なつきあいがあるので、男性が、たとえば、敵の砲火を受けて、小隊全体が窮地に陥ったことに突然気付けば、彼らが果たすだろう大手柄のことを夢に見ていることを知っています。そのこと、つまり自分が勇敢で何ものも恐れないうことを証明したいというこの願望は、男性の最も魅力的な性質の一つです。

しかし、あまりにも多くの男性が、現代の世界には至る所に、勇気を示すことができる機会があることに気付いていないのです。毎日彼らは、真実を証明する機会、つまりおそらく敵の攻撃から小隊を守るよりも勇気を必要とする状況に直面しているのです。

1ヶ月に1回、私は地元の「家族計画連盟」のクリニックの前で、約200人の人々と夜間の抗

議集會に参加します。そこで、あるものはいやいや、またあるものはたぶん胎児の父親であろう男性に導かれて、中絶を受けるためにクリニックの中に女性が入っていくのを私達は見ます。

45分ほどたつと、男性のうちの何人かがほっとした様子で一人出てきます。彼らは自分の義務を果たし、中絶の時間になるまで相手の女性と一緒に待合室に座っています。それから、女性が回復室にいる間、コーヒーを飲んだり、新聞を読んだりするために、その場を離れるのです。

私がうんざりするのには、このような男性のほとんどが、まるでデートでもしているかのようなかのような服装をしていることなのです。ただ違うのは、このデートには自分たちの子どもを殺すことと、自分たちのガールフレンドや妻を傷つけることが含まれているということです。

私は、中絶ということになる、初期のフェミニストと意見が同じです。エリザベス・スタントンやスーザン・アンソニーやアリス・ストックハム博士や大勢の人々は、忠実な中絶反対論者です。彼女たちは、中絶を「子殺し」で「女性と子どもとの搾取」だと呼びました。

さらに強調して、彼女たちは、中絶は女性を食い物にする男性の

ためにしかならないと指摘しました。一八六九年六月、エリザベス・ケイディー・スタントンとスーザン・B・アンソニー編集のフェミニストの新聞、「ザ・レポリユーション」の記事には次のように書かれています。

「安楽思考のためであれ、罪なき胎児に苦しい思いをさせたくないためであれ、動機がいかなるものであっても、この行為を行なう女性は非常に罪深いのです。それは一生女性の良心の重荷となり、死んでからは魂の重荷となるでしょう。だが、3倍も罪深いのは、自己満足のために、女性の祈りを気に留めず、女性の運命に無関心で、女性に罪を犯させる自暴自棄へと女性を駆り立てている男性なのです。」

その当時、スーザン・アンソニーは少数の男性のことを述べていたのです。今日、どんな社会的な集まりに出て、そんな男性は五万といえるでしょう。しかしそれでも、あえて流れに逆らおうとする男性、いのちも女性も世間で必要とされない時に、いのちを尊重し女性を尊重する男性は数多くいます。

そのような男性こそ、勇気ある大手柄をたてることを夢見る必要のない男性なのです。なぜなら彼らは毎日それを行なっているのですから。

子どもの隠ぺいにつながる「一人っ子政策」

中国は、「史上最大の国勢調査」を行う為に、六百万人の職員を雇って調査を始めた。調査員は10日間にわたって人口情報を収集することになり、その予備結果は二月にも発表される予定である。政府は、この国では毎年二千万人の赤ちゃんが誕生していると推定している。しかし中国の「一人っ子政策」の影響で、親が家族計画協会から子どもを何人か隠すこともあるので、この推定は実際の数字より数百万人少ないこともありえると認めている。「推測される誤差は、一九九〇年の調査の時よりも、絶対に大きくなるはずである。」と中国国立統計局の人口管理長チャン・ウェイミン氏は言う。中国には隠ぺいされた子ども達が五百万人以上いると予測されているという。政府に登録されていない子ども達は、学校によってはそういう子どもを受け入れるところもあるが、多くの場合、「教育、就職、社会保障制度の権利を奪われる」という。

ウェイミン氏は、この隠された子ども達の膨大な数には、引越しが多くて移住的になってきている社会に原因があると見ている。人口をコントロールするのが難しいからである。中国の政府は、未登録の子どもを持つ親たちの恐れを和らげようと、秘密を守ることを保証し、二人以上子どもを持つ家族の名前を家族計画協会に漏らさないこと約束した。都会に住み子どもを一人以上持つ親は、仕事をクビになったり罰金を払わされ

たりし、高い学費や医療費を払わなければならないにもかかわらず、二番目の子どもを登録する権利を拒否されることもあるからである。もつと正確な情報を得るために政府は、調査の間は二番目の子どもを登録する費用を安くすると申し出たが、多くの親たちはそれを受け入れようとしなかった。そして、一部の親たちは、政府の調査員が調べに来ることを喜ばなかったのである。

昨日は、「移住労働者達を中国本土から引きつける磁石」と言われる南中国のシェンチェンという街で、女性の人口調査員二名が隠された二人の子どもを発見した時、ひどい暴力を振るわれ、いのちの危険にさらされた。何故子ども達を登録しないのかと尋ねたところ、「六、七人が姿を現し、二人の調査員を殴ったり蹴ったりし、斧で脅した」という。調査員達は最終的に地元の調査局に助け出され、子どもを隠した父親は逮捕された。他の加害者達は逃げ去った模様である。

人口調査の予備結果は、全世界人口の22%にあたる一三億人近くの人口になると見られている。中国の人口統計は以下のサイトで見る事が出来る。
<http://www.cprc.org.cn/index.htm>

ザンビア司教による教

ザンビア共和国のすべてのカトリック教会で、「生命を選択せ

よ」と題して司教教書が読み上げられました。そこに十人のカトリック司教が署名していました。司教たちは、中絶手術の合法化に反対し、自ら「そのような残酷で非道徳的な行為を起す原因となつた社会的状況や抑圧を取り除く努力をする」ことを誓い、そして、「ザンビアの女性の性と生殖に関する健康状態を改善するために、我々は力を尽くさねばならないが、そのために中絶を推進することは決して認めない」と述べています。

病院はどこまでやっているのか

一九九九年四月、アルバータ・リポート誌は、障害を持つ胎児を人工的に分娩させ、そのまま放置して死に至らせたといつて、カルガリー・フットヒルズ病院を告発した。この噂を聞いた病院は、裁判官に泣き付いた。ロイ・テイエル裁判官は、雑誌の発行を止めさせるにはもう間に合

わなかったが、それでも雑誌社に対し、ここはカルガリーではなくバグダッドか、と思えるような禁止令を押し付けた。

アルバータ・レポート誌は、これ以上中絶について記事を書くことを禁じられただけでなく、今回のスキヤンダルについて話を聞いた人が誰かをすべて明確にしなければならぬ、とまで言われたのであった。しかし赤ちゃんが、障害によって苦しんでいるという診断によって中

絶された事実を隠そうとしても、それは難しい。実際過酷な程に奇形に生まれ、生まれてもすぐに死んでしまふ赤ちゃんはいただらう。しかし他には、ダウン症のような障害に苦しんでいるが、でも生きられる赤ちゃんがいる。そして又他にはほんの小さな欠陥だけ、あるいは、妊娠初期の診断は科学的に不確かであるから、実は全く障害のない赤ちゃんもいたかもしれない。

始め、病院のスポークスマンは、フットヒルズ病院では、治療的流産は行われなかったけれども、「遺伝子の終結」は行われたと説明した。その後でスポークスマンは言い直している。「遺伝子の終結」は行われず、ただ「致命的な障害を持つ赤ちゃんを人工的に分娩させた」だけであると。始め病院側は、そのような処置が去年で40件あったと認めた。それから次にはそれをすべて打ち消している。そしてその後、今度は51件あったという。

病院側の軽業的芸当は、まったく乱暴である。裁判所の禁止命令も同じくである。しかし本当の問題は、遺伝子中絶が、障害をもつたカナダ人のいのちの価値を軽んじているということである。そしてこのような科学的にいのちを摘み取る行為は、まだ始まったばかりなのかも知れない。アメリカの同性愛者の団体「ゲイズフォーライフ」が警告しているように、もし同性愛の遺伝子を見つけることが可能になったら、カップルやその主治医達は、その遺伝子を持っていることを発見された胎児を中絶しようとするようになる。そのような中絶は、道徳にかなっているだろ

うか？
カルガリー・フットヒルズ病院での行為が示すように、医学とは、医学の専門家達にまかせておくには重大すぎるものである。このような疑問は、もつと公衆の討論へと公開されていかなければならない。

hospital free how far H08

安楽死に関する

短いコメント

増え続けている安楽死に関する問題への意見として、医学の専門家にひとこと言いたいと思います。その一言とは、感謝の言葉です。沢山の人が、病気の治療に全力を注いでくれました。医療技術とは、人のいのちを守り保護する為にあります。医学の専門家の心と魂には、人間の威厳、国やその他のものから与えられるのではなく、生まれつきその人に備わっている威厳への揺らぐ事のない尊敬の念があります。この尊敬の念を持って行動する人々は、感謝されるに値します。現在の状況を見て、医学に携わっている人達にお願したい事があります。医学の専門的な知識や技術をいのちを殺す事に使わないで下さい。安楽死というのは殺すという言葉を使い替えているだけです。生きる価値のないのちもあるなどと言う世の中の傾向に私達は立ち向かわなければなりません。苦しみを除去する為にいのちを終わらせなければならぬなどという考え方に私達は立ち向かわなければならぬのです。私達はいのちを終わらせるのではなく、いのちを保護するのです。もしのいのちが弱く、痛みに苦しんでいたなら、だからこそ、私達が助けるべきです。現在の状況は、勇気と知恵を必要としています。私達の内一人として、それを欠く者がいませんように！

フランク・パウアーヌ

造血幹細胞に関する

二つの研究論文

最近、生物学と発生学の分野での多くの科学的な進歩が発表されました。私たちが持っている情報は、もちろん全く初歩的なものですが、それらは二つの重要な研究からのものです。

一つはマジソンにあるウィスコンシン大学の研究者によって「科学ジャーナル」に発表されたものです。そしてもう一つは、ボルチモアのジョンズ・ホプキンス大学の研究者によって発表され、「ナショナル科学アカデミー」によって出版されたものです。

彼らが行なったことは、臓器の成長と移植に対する大きな展望を潜在的に開くことになりうる一歩を踏み出すことだったのです。なぜなら彼らは研究室で造血幹細胞を成長させる方法を発見したからです。これらは人間の発生のマスター細胞と呼ばれるものなのです。

研究者はずっと以前に、マウスや他の研究用の動物から造血幹細胞を分離していました。しかし人間の造血幹細胞に関する研究は非常に遅々としたものであり、もちろんそれには論争が付きまといました。なぜなら中絶反対のグループが、人間の胎児の細胞を用い、実験が終わった後はその小さな人間の胎児を殺す研究に道徳的正当性の点から反対したためでした。

造血幹細胞は基本的には非常に初期の未分化の細胞です。それらは、増殖し人間の胚の中で成長するにつれて、神経や筋肉や心臓の細胞のような異なった種類の組織へと変わっていくのです。

初めてこの研究が実証したことは、これらの細胞の培養は明らかに無限の世代を通して維持することができ、その細胞の全てが別の組織へのこの種の分化の潜在能力を依然として持ち続けるということです。

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】

[201] 生か死..... + 郵送料
 [202] 第二の処女生..... + 郵送料
 [203] デート..... + 郵送料
 [204] どうするの?..... + 郵送料
 [205] "NO"という技術..... + 郵送料
 [206] テイーンの出産コントロール..... + 郵送料
 [207] パージンの瀬戸際..... + 郵送料
 [208] していましたか..... + 郵送料
 [209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
 [210] 貞節のすすめ..... + 郵送料
 [211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

[301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
 [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
 [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
 [305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料
 [306] ミニソフィアAce エース(税別).....7980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

[401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
 [403] ビリングス・メソッド.....(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
 [404] いのちーおくりもの.....(VHS).....13000 + 郵送料
 [407] 命美しいもの = one&only.....(VHS).....20000 + 郵送料
 [409] 聞こえる? 天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料
 [410] ビル先進国・英国からの警告...(VHS).....15000 + 郵送料
 [411] (コース・セミナー) エイズ時代の性倫理...(VHS).....3800 + 郵送料
 [500] (本) 生命問題に関する... (カトリックの教え).....2987 + 郵送料
 [501] (本) 自然な家族計画...(ビリングス・メソッド).....1000 + 郵送料
 [503] (本) プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
 [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
 [505] (本) いのちをみつめて.....500 + 郵送料
 [506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ).....660 + 郵送料
 [507] (本) 私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
 [508] (本) いのちの福音.....1500 + 郵送料
 [509] (本) 小さな生命のために.....1300 + 郵送料
 [511] (本) 赤ちゃん: 最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
 [512] 本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
 [513] 本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
 [514] 本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
 [515] (本) 経口避妊薬: ピル.....100 + 郵送料
 [516] (本) いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料
 [517] (本) フマネ・ヴィテ.....300 + 郵送料

す。

今、両方の研究はこれらの細胞は次のようなものを作り出すために用いることが可能だと主張しています。

- * 脊柱や神経の損傷を修復するための神経細胞
- * 心臓発作の後の役に立たない傷ついた組織を取り替えるための心筋細胞
- * パーキンソン病を治療し抑制するための脳細胞
- * 失われたり傷ついたりした造血器官を取り替えるための骨髓細胞
- * 糖尿病を治療するためのインスリンを作り出すための、はと目細胞
- * 特定の病気に抵抗するように遺伝子的に変えられた血液細胞

このような細胞の出所はどこでしょうか。

一つの研究では、それらは試験管内受精で作られた生きた人間の胚から採取されたものです。これらの人間の胚を女性の子宮内に戻さずに、造血幹細胞が分離されるまでその胎児は実験に利用されたのです。その小さな人間はその過程で殺されたのです。

もう一方の研究者は、その細胞を中絶された人間の赤ちゃんから採取しました。このことについて何か問題があるでしょうか。当然あります。倫理的に、私たちは他の人間のための交換用の臓器を取るために人間を殺すことはできません。そして少なくとも現在の様子から判断すれば、これら二つの研究チームが行なったことが明らかになってくるでしょう。

ジョン・C・ウィルキー 医学博士

[511] 赤ちゃん: 最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬: ピル

注文:	1 - - - - 5	1部 = ¥ 100
	6 - - - - 20	1部 = ¥ 75
フルカラー	21 - - - 999	1部 = ¥ 50
	1000 - - 以上	1部 = ¥ 35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

(本) フマネ・ヴィテ

1 ~ ~ 30	1部 = 250円
31 ~ ~ 100	1部 = 200円
101 ~ ~ 以上	1部 = 150円

パンフレット押し込み

1 ~ ~ 5	1部 = 35円
6 ~ ~ 100	1部 = 25円
101 ~ ~ 500	1部 = 20円
501 ~ ~ 以上	1部 = 15円

組み合わせ自由です

十代の性(13)

質問: 15歳の男子です。学校のフットボール部の部長にひかれています。ホモでしょうか？

答え: たいていの人は異性に興味をもつ、いわゆる異性愛者です。同性に性的興味を感じる少数派を同性愛者といいます。ここで重要なのは同性愛嗜好と同性愛行為に分けられることです。同性にひかれ異性にほとんど興味を示さない人を同性愛嗜好とよび、彼(彼女)が実際に行動に移すかどうかは無関係です。同性と性行為をすると同性愛行為となりますが、その場合、彼(彼女)が同性嗜好のこともあれば異性嗜好のこともあります。

1 同性愛行為

セックスは新しい生命をつみ、愛を築くための行為ですが、同性愛行為で新しい生命が実ることは決してありません。セックスが本来の目的で使用されていない、欲望を充たすだけの行為になっている点で、同性愛行為は善くないのです。

2 同性愛嗜好

同性愛嗜好をひきだす要因は解明されていません。生まれつきの嗜好と見なす心理学者もあれば、後天的に身についたものとする見解もあります。ある人が自然に反する性的嗜好を感じる時、その人は確かに進んで選択をしていると言えます。同性愛嗜好だが実際に行うには及ばない人もいれば、異性愛者でありながら同性愛行為に及ぶ人もいます。同性愛嗜好に陥りやすいのが、思春期の特徴でもあります。ひとつの要素だけをとってその人が本当に異性愛者かどうか判断することはできません。

セックスが許されるのは結婚した男女のみです。性欲を感じても自制している異性愛者はたくさんいます。例えば、結婚したいけれどふさわしい相手が見つからない人、奥さんが長い間病気を患っている人など。それでも人生を楽しく充実して過ごすことは可能です。愛される人格に近づぐために、日々努力するのです。同性愛者も同様に、セックスなしの人生でも充実して充たされることができます。

3 英雄崇拜

そう簡単に自分を同性愛者と決めつけるのはよましましょう。成長期である思春期は混乱も多いものです。異性愛者であっても尊敬できる同性の友達や先輩にひかれることも多いでしょう。英雄崇拜の一種です。理想の人を真似ることで、あなたも成長していくでしょう。その思いを止めたり変えるのは困難なはずですが、心の中心で思っぶんには全然悪いことではないし、心配無用です。自分の個性や知性を磨くよう努力していれば、悩みも成長の糧となり得ます。

しつとりと大地を潤す雨に日照り続きの草木も喜ぶ頃、皆様お元気でお過ごしでしょうか。

4月号の事務所便りでも御紹介しました『フマネ・ヴィテ』(300円+送料)の本を皆様に再度おすすめしたいと思えます。周りの人々へのPRのため、たくさん買ってもらえた時は、お安くしています(6ページ参照)。また、日本のカトリック司教団が出した『いのちへのまなざし』(300円+送料)も事務所に取り扱っています。

一九八〇年代に米国ではすでに始まっていた『胎児手術』が、来春、日本でも国立成育医療センターで実施されるようになったと、4月10日の読売新聞紙上に載っていました。その手術は妊娠20〜25週に行われるということです。一方では中絶が同じ頃に行われることを考える時、助かるいのちと葬り去られるいのち!いのちそのものの尊厳を私達のはつきりと認識できるように祈りますようにと祈らずにはおられません。

オランダで12才以上を対象として、安楽死が合法化されました。合法化されていない時も、年間4千人のペースで安楽死の処置が行われていたとのこと(ちなみに今回のオランダの法に類する米国オレゴン州では一九九八年〜二〇〇〇年末までに96件)これからのようになるのでしょうか。

自分を大切にしない社会に自殺や安楽死の問題が出て来て、他人を大切にしない社会に中絶の問題が頭をもたげて来ます。自分をそして他人を大切に作る社会を作り上げて行く責任を、私達一人ひとりが負わされているのです。

中島町教会で今年のイースターに受洗した8人に、『いのちについて』プロ・ライフから話をするチャンスを与えていただけ、参加しました。